

令和2年8月3日開催の「米軍再編に係る千歳基地への訓練

移転に関する連絡協議会」での要請・要望事項及び回答

●北海道、千歳市、苫小牧市の三者で構成する

「米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に関する連絡会議」としての要請

- 1 土曜日・日曜日及び早朝・深夜の訓練を実施しないことなど、これまでの両市との協議経過を踏まえ、協定の内容を確実に遵守すること。

また、米軍帰還に際しても、土曜日・日曜日及び早朝・深夜に飛行することのないよう配慮すること。

- 2 自衛隊が通常使用している訓練空域や飛行経路、飛行方法によること。

《回答》

①及び②については包括的に回答させていただきます。

千歳基地における訓練移転の実施に当たり、米軍機については、土日・祝日及び早朝・深夜における訓練はもとより、訓練空域、飛行経路及び飛行方法などについても、航空自衛隊と同様の態様となります。

協定についても、平成19年1月に、千歳市及び苫小牧市と締結した「米軍再編に係る千歳基地への訓練移転に関する協定書」の内容を遵守するとともに、これまでの関係自治体との協議・確認事項を踏まえ、訓練移転を実施しています。

また、米軍帰還の際の土日・祝日及び早朝・深夜の飛行につきましては、極力そのようなことが生じないよう米側に対し要請しています。

- 3 米軍人の本道滞在中における規律の維持に万全の対応を行うこと。

《回答》

米軍人の本道滞在中における北海道防衛局の対応については、前回と同様、必要に応じてサポートを行い、トラブルの未然防止に努める考えです。

規律の維持についても、防衛省として平素から米側に対し、隊員の教育や綱紀粛正の徹底を図る等、様々なレベルから申し入れを行っており、改めて当局からも米軍に申し入れを行います。

- 4 訓練期間中は、貴局において騒音測定を実施するとともに、できる限り早期に結果を公表すること。

《回答》

訓練期間中における騒音測定については、これまでと同様に実施し、騒音測定結果についても、速やかに公表したいと考えています。

5 訓練の安全管理及び参加する戦闘機の整備・点検など安全確保に万全を期すこと。

《回答》

日米を問わず、訓練に参加する戦闘機については、平素より定期整備、飛行前・飛行後点検等を適正に実施しており、十分な安全を確保していると承知しています。

当局としては、訓練移転の実施に際し、改めて航空機の更なる安全確保について、米側に求めてまいりたいと考えています。

6 説明会や米軍ブリーフィング及び戦闘機見学会の開催など、訓練に関する情報を住民、自治体、報道機関に詳細に提供すること。

《回答》

現在の新型コロナウイルスの状況に鑑み、例年実施してきた飛行隊長へのインタビューや戦闘機見学は計画しておりませんが、当局としては、地元の皆様への情報提供については、大変重要と認識していることから、必要な感染防止策を行った上で、米軍によるブリーフィング及び北海道防衛局による説明会は実施する方向で米軍と調整しているところです。

また、関係自治体や報道機関等への情報提供については、引き続き、お知らせできる情報が得られれば、迅速かつ確実な情報提供に努めてまいります。

7 訓練終了後の「検証」は必ず行うこと。

《回答》

訓練終了後における訓練の状況及び騒音測定結果の「検証」については、これまでと同様、可能な限り対応してまいりたいと考えています。

8 これまで実施された訓練移転によって、沖縄の負担がどの程度軽減されたのか、期限を決めて目に見える形で検証すること。

《回答》

米軍再編に係る訓練移転については、嘉手納飛行場に所在する米軍航空機について、同飛行場周辺の騒音軽減を図るため、本土の関係自治体の皆様の御理解と御協力を得て、平成19年から本土への訓練移転を開始しました。

また、平成23年からグアム等への訓練移転、平成26年6月からは三沢対地射爆撃場を使用した空対地射爆撃訓練をそれぞれ実施しているところです。

これまで千歳、三沢、百里、小松、築城及び新田原の自衛隊施設において、これまで国内で56回、グアム等で49回となり合計で105回実施しております。

これらの訓練移転により、本来であれば嘉手納飛行場で実施予定であった航空機による訓練の一部が本土又はグアム等に移転されることから、同飛行場周辺の住民に対する

騒音の影響が一定程度軽減されているものと考えています。

なお、一例を申し上げれば、グアム等への訓練移転（国内除く）の実施期間中における嘉手納飛行場での騒音値等を比較したところ、

(1) 嘉手納飛行場内の滑走路端の平均WE C PNL値

(滑走路東側)

平成22年度:96.6W

グアム等への訓練移転の実施期間中(平成23年度～令和元年度末)92.1W

(滑走路西側)

平成22年度:93.0W

グアム等への訓練移転の実施期間中(平成23年度～令和元年度末)88.9W

(2) 嘉手納飛行場周辺において目視により確認した1日当たりの平均離着陸等回数

平成22年度:123回

グアム等への訓練移転の実施期間中(平成23年度～令和元年度末)116回

となっています。当局としては今後ともどのような形で関係自治体に情報提供ができるか、本省とも調整しながら検討してまいります。

9 訓練に参加する米軍人の滞在中の行動に関し、新型コロナウイルス感染症拡大が懸念されることのないよう万全を期すこと。

また、感染症に関する情報は、国の責任において、情報収集を行い、適時・適切に公表するとともに、関係自治体に情報提供を行うこと。

《回答》

防衛省としては、今回の訓練において、実効的な感染症防止対策を講じることにより、地元の皆様に不安を抱かせないことが何よりも重要であると考えています。

今般の訓練に際し、具体的には以下の取り組みを実施する予定です。

- ・今回の訓練には、米軍参加者全員がPCR検査を受診の上、陰性が確認された者のみが参加します。
- ・多人数で行動し部外者と接触する機会のある戦闘機見学や飛行隊長へのインタビュー等は今回の訓練では実施しないほか、米軍は、新型コロナウイルス感染防止対策としてマスク着用、ソーシャルディスタンスの確保、消毒の徹底等の必要な措置を講じます。
- ・また、新型コロナウイルス感染症に関連する情報については、日米間の合意に基づき地元保健当局に確実に情報提供するなど、地元自治体への情報提供について、適切に対応してまいります。

●苦小牧市の個別要望

- 1 沖縄の負担軽減について、米軍外来機における飛来訓練等の抑制など、沖縄県の方々が負担軽減を実感できるように努めること。

《回答》

訓練移転により、本来であれば嘉手納飛行場で実施予定であった航空機による訓練の一部が本土又はグアム等に移転されることから、同飛行場周辺の住民に対する騒音の影響が一定程度軽減されているものと考えています。

今後とも米側に対し、飛行場周辺の騒音軽減が図れるよう一層の協力を求めてまいるとともに、訓練移転を積み重ねるなど、可能な限り地元の負担軽減に努めていく考えです。

- 2 千歳基地では、航空機からの部品落下が繰り返し発生していることから、米軍機を含む機体の整備、点検の強化を図るとともに、万が一事故が発生した場合は、原因究明及び再発防止策について速やかに情報提供を行うこと。

《回答》

米軍機の飛行に際しては、安全の確保が大前提であり、引き続き米側に対し、安全面に最大限の配慮を払うとともに、地域住民に与える影響を最小限にとどめるよう求めていく考えです。

なお、千歳基地での訓練移転において米軍戦闘機や輸送機の事故が発生した場合には、その原因及び今後の対応について情報が得られ次第、苦小牧市を含む関係自治体に迅速かつ確実に情報提供できるよう努めてまいります。

- 3 新型コロナウイルスの感染が拡大している中での訓練のため、米軍を含むすべての訓練関係者について、感染防止対策を一層強化するとともに、感染症に関する情報提供を行うこと。

- 4 新型コロナウイルスの感染が確認された場合は、濃厚接触者の特定が必要であることから、訓練関係者の行動記録について、速やかに情報提供を行うこと。

《回答》

③及び④については包括的に回答させていただきます。

防衛省としては、今回の訓練において、実効的な感染症防止対策を講じることにより、地元の皆様に不安を抱かせないことが何よりも重要であると考えています。

新型コロナウイルス感染防止については、米側に対し、ソーシャルディスタンスの確保や消毒の徹底等の必要な措置について、強く求めるとともに、日本側の訓練関係者においても感染防止に万全を期してまいります。

また、新型コロナウイルス感染症に関連する情報については、日米間の合意に基づき地元保健当局に確実に情報提供するなど、地元自治体への情報提供について、適切に対応してまいります。

5 新型コロナウイルスの感染が懸念されるため、米軍人の行動については、任務上必要不可欠なものに留め、不要な外出は控えること。

《回答》

防衛省としては、今回の訓練において、実効的な感染症防止対策を講じることにより、地元の皆様に不安を抱かせないことが何よりも重要であると考えています。

今般の訓練には、米軍が自らPCR検査を実施することから、感染者が訓練に参加することはありませんが、防衛省としては、米側に対し、訓練期間中の新型コロナウイルスの感染防止対策として、任務上必要な場合を除いて、外出を自粛するよう要請を行っています。